



初詣で賑わう長田神社

人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室 発行
〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第1号

もくじ

資料室が開設
資料室のオープンにあたって
3長田で得た経験を生かして他
457 防災に関するアンケート
8 提供資料リスト

人・街・ながた 震災資料室が開張

九七年の元旦は、気温も高く神戸特有の西風もなく平安な日であった。空が煙で覆われた下で、「頑張ろうで」「頑張ろうな」「倒れたらあかんで」と声をかけ合って二年が経った。今回、五十ちかい個人・団体から震災資料の提供を受け、「人・街・ながた震災資料室」を開設することができた。避難所となった学校の記録集、ボランティアの日記、当日の午後一時に撮影した航空写真、励ましの子どもたちの絵や色紙等。記憶は消してはならないし風化もさせてはいけない。震災の真只中だった区役所で働く私たちの作業は「防災」の為に貴重な営みとなるだろう。

図書・冊子 番号	資料名	提供・寄贈
1	阪神・淡路大震災 神戸地域における消防活動の記録	神戸市消防局
2	阪神淡路大震災 救援活動の記録	自治労八王子市職員組合
3	阪神淡路大震災 その時労働組合は、体験と教訓	連合近畿ブロック連絡会
4	阪神・淡路大震災 兵庫県1ヶ月の記録	阪神・淡路大震災 兵庫県災害対策本部
5	阪神・淡路大震災 神戸市の記録 1995年	神戸市
6	阪神・淡路大震災 活動記録集	日本労働組合総連合会兵庫県連合会
7	阪神・淡路大震災 水道復旧の記録	神戸市水道局
8	阪神・淡路大震災 神戸市災害対策本部衛生部の記録	神戸市衛生局
9	長田消防団 折りの足跡	神戸市長田消防団
10	「雪」 特集・阪神大震災	長田消防署
11	阪神・淡路大震災 松本市からのボランティアの記録	長野県松本市
12	阪神淡路大震災と被害別部落	
13	できる人ができる時にできることを「阪神・淡路大震災支援活動記録」	神奈川県綾瀬市

提供資料リスト

14	大震災100日の記録 兵庫県知事の手記	
15	永遠の生命 大震災を越えて	兵庫県立高等学校長協会
16	震災の記録	神戸市立池田小学校
17	ひびきわたれ みくらの思い 生れかわる神戸へ	神戸市立御蔵小学校
18	阪神大震災と真鍋小学校	神戸市立真鍋小学校
19	阪神大震災 記録集	神戸市立大塚中学校
20	阪神淡路大震災 復旧支援活動の記録	自治労長野県本部
21	長田随想 共に生かし合って生きる街	
22	阪神・淡路大震災 証言 ベッドサイドから	神戸市立中央市民病院 看護部
23	1995.1.17 阪神・淡路大震災	兵庫県立夢野台高校
24	神戸市立病院紀要 この震災での体験・教訓・今後の対策	神戸市衛生局
25	阪神・淡路大震災 復旧記録	関西電力株式会社
26	阪神・淡路大震災被災被害者 訪問活動記録からの分析と提言 神戸地域	全日本自治団体労働組合

資料の提供に
ご協力いただき
ありがとうございました。

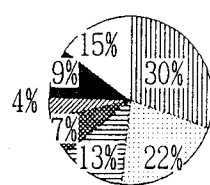
写真・ビデオ・その他

番号	提供・寄贈者	備考
1	千葉県松戸市	写真・避難所ノート・報告書
2	栃木県宇都宮市	写真・日記・活動記録
3	広島県福山市	写真
4	愛知県一宮市消防本部	消防応援派遣活動記録
5	東京都世田谷区	写真
6	栃木県小山市	写真・復命書
7	兵庫県立図書館	震災関連資料リスト
8	柿沼 久 東京都児童相談センター	写真
9	上平 京子 神戸市立川原保育所	写真
10	松尾 純代 自治労大阪府本部 保育部会	写真・保育キャパパン活動報告
11	網走市労働組合連合会	自治労 あばしり
12	富士 八郎 東京都葛飾区職労	長楽小学校での震災避難住民救援活動報告
13	西田 ひかる	色紙
14	関西電力株式会社	ビデオ 153時間 阪神・淡路大震災 応急発電の記録
15	櫻井 田中 俊雄	ビデオ 映像記録 阪神大震災(毎日放送)
16	東京都港区職員労働組合	機関紙 みなと「震災特集号」

心海聖子



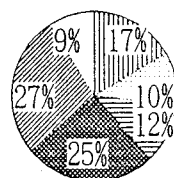
・1時間以内	70人
・1～2時間	50人
・2～3時間	29人
・3～4時間	17人
・4～5時間	9人
・5時間以上	22人
・回答なし	35人
・合計	232人



1時間以内	70人
1～2時間	50人
2～3時間	29人
3～4時間	17人
4～5時間	9人
5時間以上	22人
回答なし	35人

(3)登庁の方法 ☐徒歩のみ ☐自転車 ☐バイク ☐車 ☐その他 ()

・徒歩のみ	39人
・自転車	23人
・バイク	27人
・車	59人
・その他	63人
・回答なし	21人
・合計	232人



徒歩のみ	39人
自転車	23人
バイク	27人
車	59人
その他	63人
回答なし	21人

(4)1月17日(当日)に登庁できなかった人は、その主な理由

☐家族の被災 ☐自宅の被災 ☐別居の親族の安否確認
☐交通機関の途絶 ☐その他 ()

(複数回答)

・家族の被災	20人
・自宅の被災	36人
・別居の親族の安否確認	34人
・交通機関の途絶	84人
・その他	26人

(内訳 本人産休等10人、保育所閉鎖9人、その他7人)

・合計 200人
 (注 当日登庁できなかった人 146人)

(参 照)

1. 長田区防災マニュアル策定委員会とは

この委員会は、次のような目的・構成員・所掌事務をもって設置され、平成8年8月6日に第1回目が開催されました。

(目的) 長田区が、神戸市地域防災計画に規定された各種の防災対策を実施するにあたり、さきの阪神大震災の経験に基づき、災害時にすみやかな活動が確保できるよう、職員の参加のもとに、具体的行動指針や行動内容を定めたマニュアルについて検討するために設置する。

(構成員) 市民部長(主宰者)、全ての課長級職員、職場代表(支部3役、民生支部の長田分会長、衛生支部の長田分会長)、その他市民部長が必要と認める者(総務課庶務係長、総務課調査係長)合計20名

震災資料室の

オープンにあたって

長田区長 日坂 昇

このたびの震災資料室は、市内で最も被害の大きかった長田区の震災直後から現在に至るまでの記録が散逸しないために今のうちに資料を収集しておく趣旨からスタートしています。

このことは、震災の記録・経験を風化させない意味もありますが、それ以上にこのような未曾有の災害の時にどのような行動をすれば市民の安全を守り、生活を安定させることが出来るかなどの指針を得る参考になると思います。

震災資料をまとめた資料室は、市内でもいくつかありますが、この資料室は長田区という地域を特定し、市民・行政・学校・地域・団体など多分野の資料が収集の対象となっています。そのため収集される資料の中には、おそらく長田区内の避難所をはじめ生々しいデータがあると思われます。

震災から2年余が過ぎても震災の傷あとが深く、震災のことを思い出たくない区民の方もたくさんおられることと思います。

そのため、資料を提供して下さった方々に感謝し、資料を有効に活用するために個人のプライバシーを充分に配慮して資料を整理する必要があります。今後の整理に相当の時日を要する可能性もあります。そして整理の結果、どの程度の資料が公に出来るのかは全く見当が付きませんが、これらの資料を後世に残す教訓として活かしていきたいと思っています。再び経験したくはありませんが、常に災害に対する心構えが必要であり、長田区内の膨大な資料を整理し体系化させることが出来れば、素晴らしいデータベースになると思います。特に、この資料室の作業が区役所職員のボランティアによってなされるということも大きな意義があります。

二年前の悪夢の一日、燃え広がっていく町並みをジョイプラザ十二階ベランダから写したものです。何かの役にたてばと思います。現在は神戸市を離れ、加古川に住んでいます。

写真提供 上平京子

資料展

3月3日★4日★5日
 (月) (火) (水)

長田区役所 7階 大会議室

あの目撃者様な焼け跡のなかで、私たち自治労が、救援活動をおこなった時からもう2年が過ぎました。

当時、震災から1週間後の1月25日に後藤委員長等が神戸入りし、見舞金(3億円)を県・市に手渡すとともに、関係者から説明を受けるなどの調査を行なった。その結果、「神戸市内で具体的な支援活動をすべきだ」として、神戸市従書記局に現地対策事務所を起し、以後3月末までの2ヶ月間支援活動に取り組み、延き、88人の組合員が全国から参加した。

既に市民ボランティアは活動していたが、自治労は自治体職員の労働組合という特色を生かした支援活動を行うこととした。それは、神戸市の職員が文字通り不眠不休で行っている震災により生じた避難所等の業務を肩代わりすることです。

神戸市との相談の結果、長田区と東灘区を担当することとなりました。

長田区では、区役所内に自治労の連絡事務所を設置する等、区当局や組合側ともに様々に協力をいただきました。10ヶ所の避難所の運営の支援活動をした。

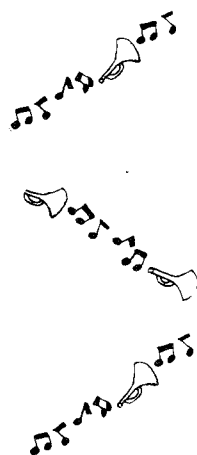
長田で得た経験を 生かして

自治労・阪神淡路大震災
支援責任者

斎藤 謙

全国から来た組合員たちは、あまりの惨状に胸がふれそうになる思いをしながらも、本当に真剣にそして熱心に働きました。決して楽な活動ではありませんでしたが、参加した仲間たちは、神戸で長田区で得た経験を自分の心に刻み込むとともに、帰ってから自分の自治体で防災体制の見直し等に生かしています。

この間、長田区の当局や職員の皆さんに大変お世話になり、あらためてお礼を申し上げます。また、まだまだ続く復興について奮闘されることを、全国の自治労の仲間とともに期待します。頑張ってください。



震災から二回目の冬の冬がやってきました。私は平成七年三月六日から一週間、自治労障害者支援班のボランティアとして、神戸市内の被災地障害者の安否確認に従事しました。

同封した写真はその時撮影したものです。ボランティアの内容が内容故、カメラを持ち歩くことなど考えもしませんでした。しかし

かし、市内のあまりの惨状にこれは記録に残しておかなければと思い、インスタントカメラを購入しました。シャッターを押すときは躊躇することが、何度もありました。東京に戻り、神戸の様子を伝える時、写真は言葉より多くを語ってくれました。

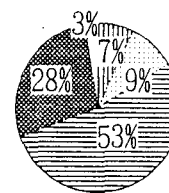
東京都児童相談センター 柿沼 久

一月十二日津山市で開催された「宮川朝市」にて「忘れかかっている阪神淡路大震災を、市民の心によみがえらせよう」という主旨で、津山園城デザイン会議と協力しながら、炊き出し行動を行いました。この炊き出しは、救援活動の時おこなった豚汁(五百食分)を用意し合せて長田区からお借りしたパネル展示を行ないました。炊き出しは来場者に無料で振る舞いながら義援金をつのり同封の金額が集まりましたので送らせていただきます。

津山市 梶岡 潤二

(3)住居の被災状況 □全壊(焼) □半壊(焼) □一部損壊 □その他

・全壊(焼)	16人
・半壊(焼)	22人
・一部損壊	123人
・その他	65人
・回答なし	6人
・合計	232人

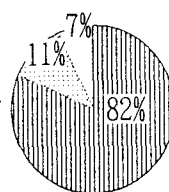


全壊(焼)
半壊(焼)
一部損壊
その他
回答なし

3. 震災発生後、最初に職場へかけつけた時のことについて

(1)登庁した職場 □配属先(長田区役所等)
□近くの区役所等(名称)

・配属先(長田区役所等)	190人
・近くの区役所等	26人
・回答なし	16人
・合計	232人



配属先
近くの区役所等
回答なし

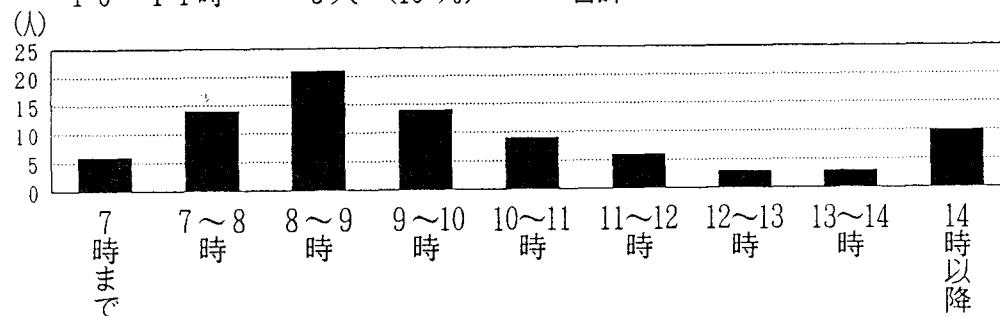
(2)家を出た日時 1月 日 午前・午後 時頃
職場に到着した日時 1月 日 午前・午後 時頃
差引所要時間 時間 分

・1月17日	86人
・1月18日	36人
・1月19日	43人
・1月20日	16人
・1月21日以降	21人
・回答なし	30人
・合計	232人



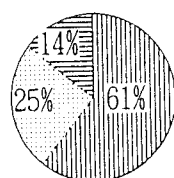
1月17日
1月18日
1月19日
1月20日
1月21日以降
回答なし

・7時まで	6人 (7%)
・7~8時	14人 (16%)
・8~9時	21人 (24%)
・9~10時	14人 (16%)
・10~11時	9人 (10%)
・11~12時	6人 (7%)
・12~13時	3人 (4%)
・13~14時	3人 (4%)
・14時以降	10人 (12%)
・合計	86人 (100%)



(3)所属 ☐ 市民部 ☐ 福祉部 ☐ 保健部

・市民部 141人
 ・福祉部 58人
 ・保健部 33人
 ・合計 232人

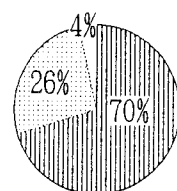


||||| 市民部
 ||||| 福祉部
 ||||| 保健部

2. 阪神大震災発生当時のあなたについて

(1)所属 ☐ 長田区役所, 長田福祉事務所, 長田保健所 ☐ その他の局室区

・長田区役所, 長田福祉事務所, 長田保健所 163人
 ・その他の局室区 61人
 ・回答なし(新規採用など) 8人
 ・合計 232人



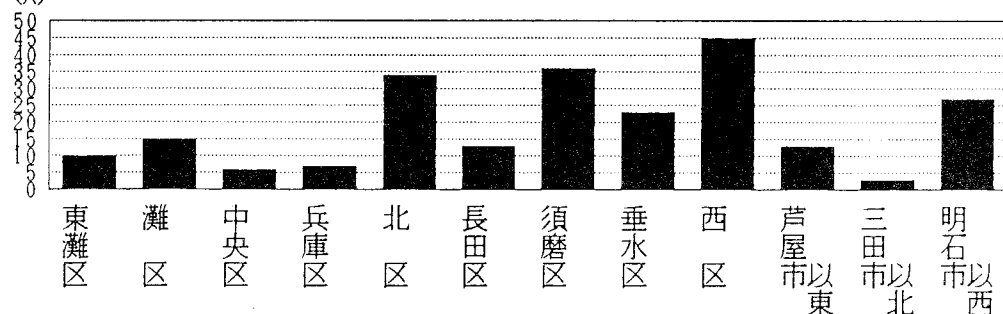
||||| 長田区役所
 ||||| 長田福祉事務所
 ||||| 長田保健所
 ||||| その他の局室区
 □ 回答なし

(2)住所 ☐ 東灘区 ☐ 灘区 ☐ 中央区 ☐ 兵庫区 ☐ 北区 ☐ 長田区 ☐ 須磨区
☐ 垂水区 ☐ 西区 ☐ 芦屋市以东 ☐ 三田・三木市以北 ☐ 明石市以西

・東灘区 10人 (4%)
 ・中央区 6人 (3%)
 ・北区 34人 (15%)
 ・須磨区 36人 (15%)
 ・西区 45人 (19%)
 ・三田市以北 3人 (1%)
 ・合計 232人 (100%)

・灘区 15人 (6%)
 ・兵庫区 7人 (3%)
 ・長田区 13人 (6%)
 ・垂水区 23人 (10%)
 ・芦屋市以东 13人 (6%)
 ・明石市以西 27人 (12%)

(人)



防災に関するアンケート結果

阪神大震災の発生以来、災害復旧業務あるいは増大した本来業務に対し、長田区職員は丸となって携わってきました。

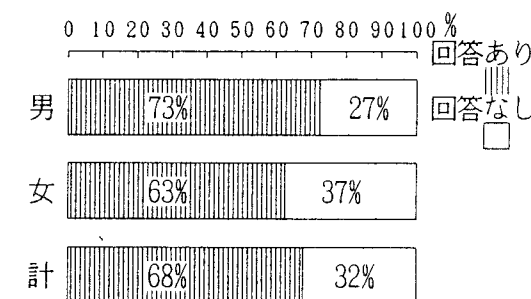
さて、このアンケートは、長田区防災組織計画及び防災マニュアルの作成にあたり、地震発生時の初動体制並びに応急対応体制の検討資料として使用することを目的として行いました。さきの阪神大震災の経験を生かし、災害時にすみやかな活動が確保できるように震災の真只中にあった区役所職員の思いが表れています。

長田区防災マニュアル策定委員会

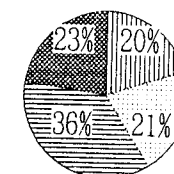
1. 現在のあなたについて(該当するものに☑をつけてください。以下同じ)

(1)性別 ☐ 男 ☐ 女

	回答あり	回答なし	合計職員数
男	132人	50人	182人
女	100人	60人	160人
合計	232人	110人	342人

(2)年齢 ☐ 29歳以下 ☐ 30~39歳 ☐ 40~49歳 ☐ 50歳以上

・29歳以下 47人
 ・30~39歳 48人
 ・40~49歳 84人
 ・50歳以上 53人
 ・合計者数 232人



||||| 29歳以下
 ||||| 30~39歳
 ||||| 40~49歳
 ||||| 50歳以上